様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０３９８９

研究課題名（和文）国際会計基準審議会（IASB）の概念フレームワークの研究

研究課題名（英文）Study on IASB's Conceptual Framework

研究代表者
岩崎　勇（IWASAKI, Isamu）

九州大学・経済学研究院・教授

研究者番号：８０１７６５３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトの期間において、IASBの概念フレームワークについての内容・特徴・問題点等について,(1)個人の研究成果としては、13の論文等が発行できた。また、(2)スタディグループでの研究成果として、国際会計研究学会及び日本会計史学会でのスタディグループの２つの最終報告書を発行できた。さらに、(3)本として出版された研究成果として、1冊の単著と1冊の編著書を発行することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
国際会計基準審議会（IASB）の公表する会計基準である国際財務報告基準（IFRS）を採用する国は100カ国以上に上っている。わが国もIFRSの任意適用を容認しており、会計の国際化は非常に重要である。同時に、このIFRSは概念フレームワークに基づいて作成されるので、概念フレームワークを研究すること、特にわが国の実状に合った概念フレームワークを理論的に研究することは、非常に重要である。

研究成果の概要（英文）：On the contents, characteristics and problems of the International Accounting Standards Board’s Conceptual Frameworks, we published 13 theses, 2 final reports, and 2 books in this project.

研究分野：財務会計

キーワード：国際会計基準審議会　IASB　概念フレームワーク

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初において、国際的に国際会計基準審議会（IASB）の公表する国際財務報告基準（IFRS）への各国会計基準の統合の流れが一気に加速してきており、IFRS を採用又は許容する国は 100 カ国以上に上っていた。このような状況において、我が国の会計に大きな影響を及ぼしてきた米国においても、2008 年から外国企業について IFRS の採用を認めた。他方、我が国においても、2009 年に IFRS の任意適用が認められ、IFRS を採用する企業が徐々に増加してきていた。さらに、2016 年 3 月期から日本版 IFRS といわれる修正国際基準（JMIS）の採用も認められるようになった。この場合、IFRS は、細則主義ではなく、原則主義によっており、その判断基準として、個別の会計基準の他に、会計の憲法に相当し、個別の会計基準を設定するためのメタ基準である「概念フレームワーク」が重要性を持っている。また、将来において新たに個別の会計基準が設定・改廃される場合、会計基準間の一貫性を保持するためにも、概念フレームワークが参照されることとなる。

このような状況の下において、概念フレームワークは、将来においてどのような会計制度を設計していくのかについての基準設定者の将来における理想的な姿を表し、会計の憲法に位置づけられるものであるので、概念フレームワークを研究することは、非常に重要であったし、現在でもそうである。

2. 研究の目的

我が国の財務会計の分野において、国際会計基準審議会（IASB）が設定する国際財務報告基準（IFRS）を我が国会計制度へ採用（アドプション）するか否かが現在も問題となっている。このような採用の決定がなされた場合、我が国の財務会計の歴史において戦後初の極めて大きな転換点となるが、当面は IFRS の任意適用を継続する予定となっている。このような状況の下において、新たな会計基準の設定の基礎として、会計の憲法に相当する会計の概念フレームワークが非常な重要性を帯びてくる。この概念フレームワークについて近年大きな改訂が IASB によって行われてきている。この様な国際的な状況を反映して、本研究では、IASB の概念フレームワークの特徴点や問題点等を研究すると同時に、我が国の実状に合った概念フレームワークを理論的に研究することを目的としている。

3. 研究の方法

本研究目的を達成するために、まず国際的な状況を把握するために、E-IFRS 等の国内外の雑誌・本等によって情報を収集すると共に、概念フレームワークに関してその設定主体である国際会計基準審議会（IASB）の本部のある英国ロンドン等で資料収集を行った。そして、それを基礎として、IFRS の概念フレームワークの改訂等の国際的な状況を観察しながら、文献研究によって、同時に我が国の実状に合った概念フレームワークを理論的に研究した。なお、個人の研究では、一定の限界があるので、国際会計研究学会や日本会計史学会においてスタディグループを組織し、座長としてメンバーの先生方の力を借りて研究内容

を深めた。

4 研究成果

ここでは、研究成果を、以下のように、個人の研究成果、スタディグループでの研究成果及び著作として出版された研究成果に分けて説明することとする。

(1) 個人の研究成果

本プロジェクトの研究期間において、次のような IASB の概念フレームワークにおける重要項目についての論文を発行した。

まず、「IASB 概念フレームワーク全般」についての内容・特徴・問題点等については、「IASB の新しい概念フレームワーク」『税経通信』第 73 巻第 9 号（2018 年）及び『IFRS の概念フレームワーク』税務経理協会（2019 年）で明確化している。

また、「概念フレームワークの目的」についての内容・特徴・問題点等については、「概念フレームワークの目的の歴史的考察-FASB の IASB 概念フレームワークへの影響を中心として-」『FASB 及び IASB の概念フレームワークについての歴史的考察―最終報告書―』日本会計史学会スタディグループ（2019 年）で明確化している。

そして、「財務情報の質的特性」についての内容・特徴・問題点等については、「Qualitative Characteristics of Financial Information in IASB's Conceptual Frameworks」『九州経済学会年報』（2017 年）及び「有用な財務情報の質的特徴」『IASB の概念フレームワーク』税務経理協会（2019 年）で明確化している。

さらに、「財務諸表の構成要素 」についての内容・特徴・問題点等については、「概念フレームワークにおける財務諸表の構成要素の定義」『IFRS の概念フレームワークについて―最終報告書―』国際会計研究学会研究グループ（2016 年）で明確化している。

また、「認識・測定基準 」についての内容・特徴・問題点等については、「Measurement Problems of the IASB's Conceptual Framework」『九州経済学会年報』第 56 集（2018 年）で明確化している。

そして、「表示及び開示 」についての内容・特徴・問題点等については、「IASB の概念フレームワークについて―財務諸表における表示・開示を中心として―」『経済學研究』第 84 巻第 4 号（2017 年）及び「FASB の概念フレームワークについて―財務諸表に対する注記を中心として―」『経済學研究』第 84 巻第 1 号（2017 年）で明確化している。

最後に、「資本及び利益」についての内容・特徴・問題点等については、「資本及び資本維持の概念」『IASB の概念フレームワーク』税務経理協会（2019 年）及び「概念フレームワークをめぐる利益概念の一元化思考」『IFRS の概念フレームワークについて―最終報告書―』国際会計研究学会研究グループ（2016 年）で明確化している。

(2) スタディグループでの研究成果

本プロジェクトの研究期間において、次の２つの IASB の概念フレームワークに関する最終報告書を発行した。

① 国際会計研究学会研究グループ[2016]「IFRS の概念フレームワークについて―最終報告書―」国際会計研究学会研究グループ

本最終報告書は、国際会計研究学会のメンバーが共同執筆したものであり、IASB 概念フレームワークについての内容・特徴点・問題点等を明確化している。なお、本報告書の中での具体的な担当として、「概念フレームワークにおける財務諸表の構成要素の定義」についての内容・特徴点及び問題点等を明確化している。

② 日本会計史学会スタディグループ[2019]「FASB 及びＩＡＳＢの概念フレームワークについての歴史的考察―最終報告書―」日本会計史学会スタディグループ

本最終報告書は、日本会計史学会のメンバーが共同執筆したものであり、FASB 及び IASB の概念フレームワークについて歴史的な観点からその内容・特徴点・問題点等を明確化している。なお、本報告書の中での具体的な担当として、「概念フレームワークの目的の史的考察―FASB の IASB 概念フレームワークへの影響を中心として―」についての内容・特徴点及び問題点等を明確化している。

(3) 出版された研究成果

本プロジェクトの研究期間において、次の 2 冊の IASB の概念フレームワークに関する著作を出版した。

① 岩崎勇[2019]『IFRS の概念フレームワーク』税務経理協会

本書は、単著であり、IASB の IFRS とわが国の会計の会計基本思考の違いや IASB 概念フレームワークの特徴点や内容等を明確化している。

② 岩崎勇編著[2019]『IASB の概念フレームワーク』税務経理協会

本書は、国際会計研究学会や日本会計史学会のメンバーが中心となって共同執筆されたものであり、IASB 概念フレームワークについての内容・特徴点・問題点等を明確化している。なお、本書の中での具体的な担当として、「有用な財務情報の質的特性」及び「資本及び資本維持の概念」についての内容・特徴点及び問題点等を明確化している。

これまで、本科研費の補助を得て 4 年間 IASB の概念フレームワーク等について研究を続けてきたが、概念フレームワークは、会計のすべての領域を網羅する広範かつ理論的なものなので、これで満足のいく全体的な結論が導かれたわけではなく、まだまだ研究すべき領域は多く存在する。そこで、現在も新たに日本会計研究学会に新しいスタディグループの設置を申請中である。もしこの申請が通れば、多くのメンバーの力を借りて、さらに概念フレームワークについての研究を深めていきたい。また、もしこの申請が通らなくても、引き続き概念フレームワークについての研究を行っていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　12件）

１．著者名 岩崎勇	４．巻 1
２．論文標題 資本及び資本維持の概念	５．発行年 2019年
３．雑誌名 IASBの概念フレームワーク	６．最初と最後の頁 169-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岩崎勇	４．巻 1
２．論文標題 有用な財務情報の質的特徴	５．発行年 2019年
３．雑誌名 IASBの概念フレームワーク	６．最初と最後の頁 63-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岩崎勇	４．巻 1
２．論文標題 概念フレームワークの目的の歴史的考察-FASBのIASB概念フレームワークへの影響を中心として-	５．発行年 2019年
３．雑誌名 FASB及びＩＡＳＢの概念フレームワークについての歴史的考察-最終報告書-	６．最初と最後の頁 29-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岩崎勇	４．巻 第12号
２．論文標題 自動仕訳等のコンピュータ会計化に伴う複式簿記の変容について－資産負債アプローチとの関連において	５．発行年 2018年
３．雑誌名 財務会計研究	６．最初と最後の頁 1－31頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩崎勇	4．巻 第73巻第9号
2．論文標題 IASBの新しい概念フレームワーク	5．発行年 2018年
3．雑誌名 税経通信	6．最初と最後の頁 6－7頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩崎勇	4．巻 第56集
2．論文標題 Measurement Problems of the IASB's Conceptual Framework	5．発行年 2018年
3．雑誌名 九州経済学会年報	6．最初と最後の頁 25－30頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩崎勇	4．巻 196号
2．論文標題 IFRS概念フレームワークと日本企業の対応―収益認識を中心として	5．発行年 2019年
3．雑誌名 創造のひろば	6．最初と最後の頁 1頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩崎勇	4．巻 第55集
2．論文標題 Qualitative Characteristics of Financial Information in IASB’s Conceptual Frameworks	5．発行年 2017年
3．雑誌名 九州経済学会年報	6．最初と最後の頁 27-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩崎勇	4．巻 第84巻第4号
2．論文標題 IASBの概念フレームワークについて―財務諸表における表示・開示を中心として―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 經濟學研究	6．最初と最後の頁 45-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩崎勇	4．巻 第84巻第1号
2．論文標題 FASBの概念フレームワークについて―財務諸表に対する注記を中心として―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 經濟學研究	6．最初と最後の頁 77-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩崎勇	4．巻 第84巻第2・3合併号
2．論文標題 コンピュータ会計の発展に伴う複式簿記の変容について	5．発行年 2017年
3．雑誌名 經濟學研究	6．最初と最後の頁 25-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩崎勇	4．巻 －
2．論文標題 概念フレームワークをめぐる利益概念の一元化思考	5．発行年 2016年
3．雑誌名 IFRSの概念フレ―ムワークについて－最終報告書－	6．最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岩崎勇	４．巻 -
２．論文標題 概念フレームワークにおける財務諸表の構成要素の定義	５．発行年 2016年
３．雑誌名 IFRSの概念フレームワークについて－最終報告書－	６．最初と最後の頁 75-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　3件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 FASB及びＩＡＳＢの概念フレームワークについての歴史的考察―最終報告―
３．学会等名 日本会計史学会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 自動仕訳等のコンピュータ会計化に伴う複式簿記の変容について－資産負債アプローチとの関連において
３．学会等名 九州大学会計リサーチ･ワークショップ
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 IASBの概念フレームワークの計算の構造
３．学会等名 日本会計研究学会九州部会
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 新たなIASB概念フレームワークについて―資本及び資本維持概念との関連において
３．学会等名 国際会計研究学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 IFRS概念フレームワークと日本企業の対応
３．学会等名 経理部長クラブ（九州生産性本部）（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 IASBの概念フレームワークについて―開示に関する取組みを中心として―
３．学会等名 日本会計研究学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 自動仕訳等のコンピュータ会計化に伴う複式簿記の変容についてー概念フレームワークとの関連においてー
３．学会等名 財務会計学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 Measurement Problems of the IASB’s Conceptual Framework
３．学会等名 九州経済学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 IFRSの概念フレームワークについて―最終報告
３．学会等名 国際会計研究学会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 IASBの概念フレームワークの計算構造について
３．学会等名 日本会計研究学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 IASB概念フレームワークにおける利益概念の一元化思考
３．学会等名 会計理論学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 岩崎勇
２．発表標題 The Quaritative Characteristics of Financial Information in IASB's Conceptual Frameworks
３．学会等名 九州経済学会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計2件

１．著者名 岩崎勇	４．発行年 2019年
２．出版社 税務経理協会	５．総ページ数 197頁
３．書名 IFRSの概念フレームワーク	

１．著者名 岩崎勇編著	４．発行年 2019年
２．出版社 税務経理協会	５．総ページ数 186
３．書名 IASBの概念フレームワーク	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考